2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
生理系分野	呼吸器病態生理学特論Ⅰ・Ⅲ	小賀 徹

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

（1）呼吸器系の正常機能に関わる構造的足場と構築細胞の種類と機能分担を理解する。
（2）正常な呼吸機能を傷害する外的因子と呼吸器系細胞の反応を理解する。
（3）代表的な呼吸器疾患の分子細胞学的な病態を理解し，最新の情報から導き出される仮説を検証する。
（4）呼吸器疾患における基礎研究や臨床研究の成果をいかに医療現場に還元するかを理解する。

授業到達目標

（1）呼吸機能を構築する細胞の種類とその役割を説明できる。
（2）呼吸機能を傷害する外的因子または傷害因子となりうるものを列挙できる。
（3）最新の文献情報から呼吸機能破綻をきたす病態を免疫学的および細胞生物学的に説明できる。
（4）臨床におけるアウトカム研究の意義を理解して，立案し，実践できる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	隔週	月	15:30-16:30	小賀 徹	講義	[抄読会]	呼吸器疾患、特に非がん領域における臨床アウトカム研究に関する文献や実例を紹介し、考察・討議する。 [場所:本館棟５階カンファレンス室４]
2	隔週	水	15:00-16:00	黒瀬 浩史	講義	[抄読会]	臨床検体を用いた免疫モニタリング法を学び，実践する。 [場所:本館棟５階カンファレンス室４]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1）１年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）１年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1）１年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）１年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※１～３年生は２月末まで，４年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

論文紹介のプレゼンテーションに対する質疑応答を通じて，フィードバックを行う。

教科書

ISBN-9784758122009，<実験医学別冊>もっとよくわかる!免疫学，河本　宏，羊土社，2011
ISBN-9780323549431, Basic Immunology-Functions and Disorders of the Immune System（5th Edition）, Abul K. Abbas, et al., Elsevier, 2020
ISBN-9780323757485, Cellular and Molecular Immunology（10th Edition）, Abul K. Abbas, et al., Elsevier Saunders, 2022
ISBN-9780815344667, The Immune System（4th Edition）, Peter Parham, Garland Science, 2014

参考書

ISBN-9781260473988, Fishman's Pulmonary Diseases and Disorders <2 volume set>（6th Edition）, Michael A. Grippi, et al., MCGRAW HILL MEDICAL, 2022
ISBN-9781107024342, Spencer's Pathology of the Lung（6th Edition）, Hasleton P・Flieder DB, Cambridge University Press, 2013

準備学習（予習・復習等）

（1）予習：取り上げる論文の背景となる知識を教科書で学習しておく。（約 30 分程度）
（2）復習：紹介した論文の要約を作成する。できるだけ多くの関連論文を読む。（約 1 時間程度）

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

課題を探求し，仮説立脚，検証に至るまでの科学的方法論・思考法を修得する。

注意事項・メッセージ

何事にもいかに自分の研究に応用できるかを考えながら取り組みましょう。